

ごみ拾いをスポーツ化した競技 県大会

29チーム美化へ汗だく

ごみ拾いをスポーツにした新たな競技「スポGOMI（スポゴミ） ワールドカップ」の県大会が、西宮市西宮浜3の西宮浜総合公園周辺で開催された。29チームの計約90人が参加。汗だくになりながら、海辺に打ち上げられたプラスチックごみや道路脇に捨てられたたばこの吸い殻などを熱心に拾い集め、量や種類を競い合った。

西宮浜総合公園周辺

日本財団が企画し、海洋ごみの削減などに取り組む「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として開催。世界約20カ国で予選が開かれており、11月に東京都で本大会が開かれる。

2008年に日本で生まれたスポゴミ。チームに分かれて制限時間内に拾ったごみの種類や量で得点を競う。誰でも参加でき、県大会には親子や大学の部活動仲間、会社の同僚などで結成されたチームが集まった。

6日午前10時、ルール説明などの後、3分間の作戦会議をしてスタート。走めることは禁止されているため徒歩でごみの落ちていそうな場所に向かった。公園横の海沿いに進んだのは、家族で参加した小学5年の定常いっほさん（11）と一騎君（11）。流木などと一緒に落ちていた花火のごみなどを拾った。2人は「自動販売機の近くに栄養ドリンクの瓶とかがたくさん捨ててあった」と話し「ゲームみたいにごみを

海岸沿いで協力してごみを拾う親子―いずれも西宮市西宮浜3

映像制作会社のチーム優勝 「作戦考えたが、拾うことに夢中」

優勝を目指して作戦会議
拾うのが面白かったし、海を守れたと思う」と笑顔を見せた。

一方、高速道路の高架下を目を付けたのは、映像制作会社の部下と参加した近清将希社長（26）。たばこの吸い殻は他のごみよりもポイントが高いため、高架下の側溝にたまった吸い殻を地面に膝を着けて必死に集めた。

脱ぎ捨てられた服や園芸用の支柱など、街中に捨てられた多くのごみを見て「こんなにもごみがあるのか」「なんでこんなものまで捨てるんや」などと話し合いながら進むチームもあった。

1時間の制限時間を終えて集まったごみは計約107キログラム。9・98キログラムを集めた近清さんのチームが優勝した。近清さんたちは仕事や日常生活を通じてごみの多さが気になって大会に参加したという「作戦も考えていたが、気付いたら拾うことに夢中になっていた」と話した。

優勝チームは10月9日、東京都開かれる全国大会に出場し、世界大会を目指す。



（村上貴浩）



大会後に集まったごみ